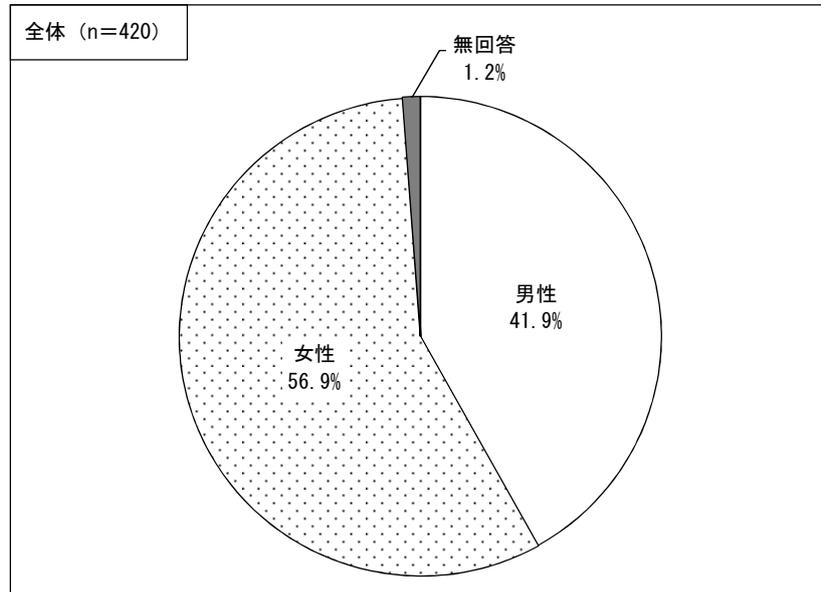


町民アンケート 調査結果

※ アンケートの集計結果における「無回答」には、無効な回答も含めています。

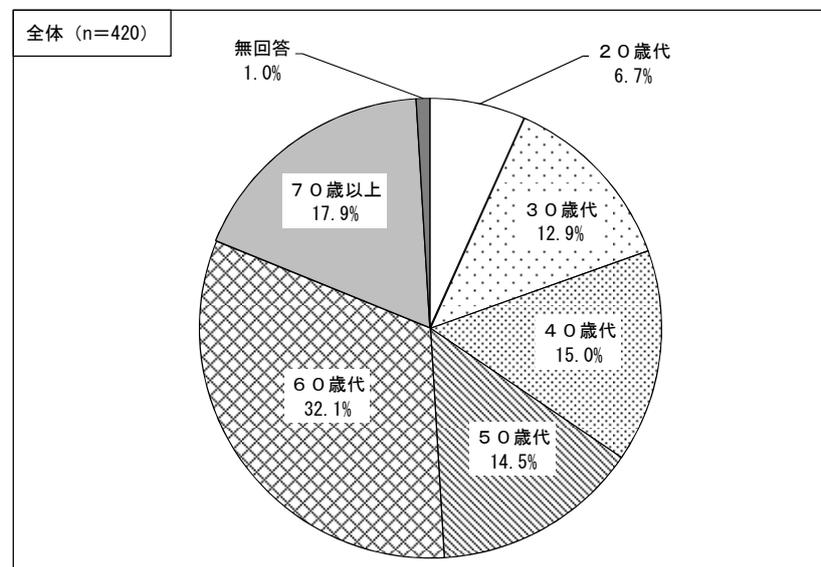
1. あなたやあなたのご家族について

問1-1



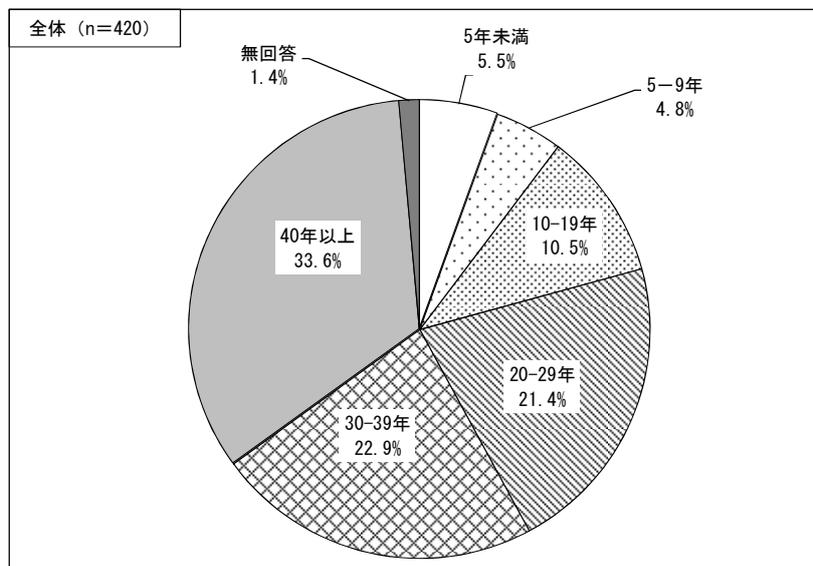
「男性」が41.9%、「女性」が56.9%と、女性の割合が多くなっています。

問1-2



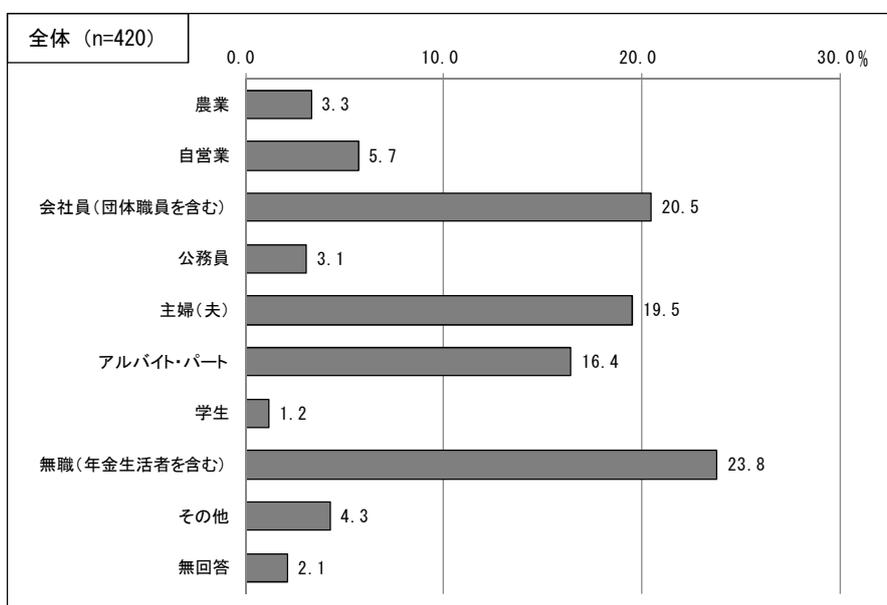
割合が高いのは「60歳代」が32.1%と最も多く、次いで「70歳以上」(17.9%)、「40歳代」(15.0%)の順となっており、60歳代の回答者が特に多くなっています。

問 1-3



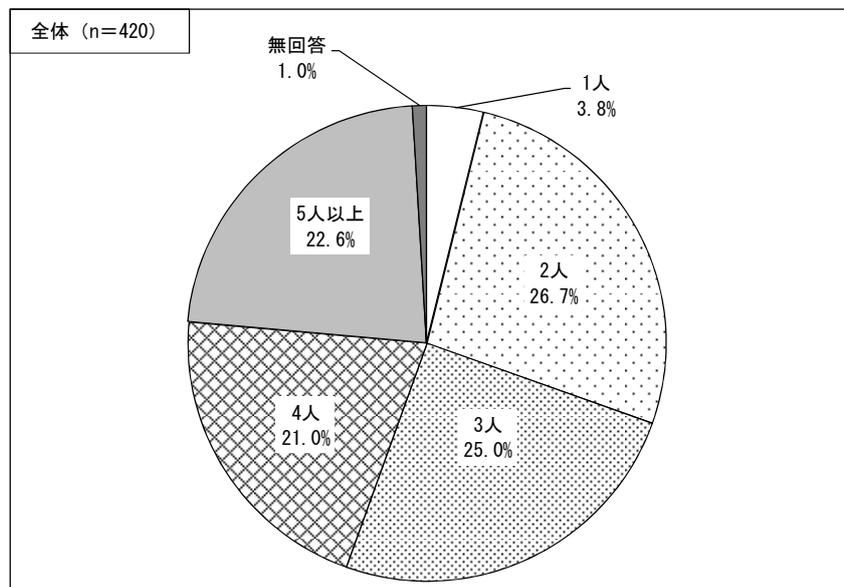
居住年数については、「40年以上」が33.6%と最も多く、次いで「30年-39年」(22.9%)、「20年-29年」(21.4%)の順となっています。8割近くの回答者が20年以上、川島町に居住されていることとなります

問 1-4



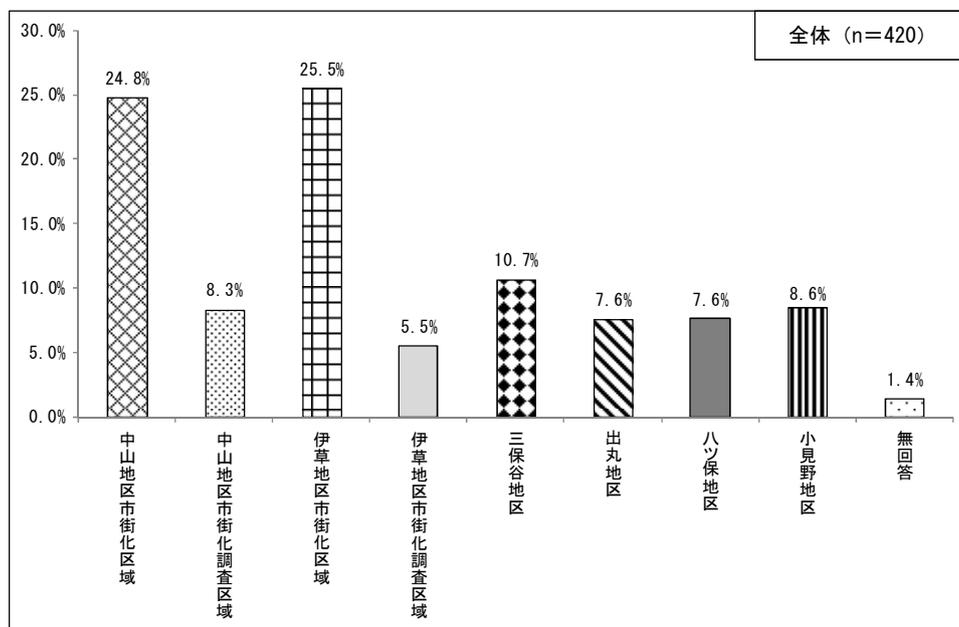
職業については、「無職(年金生活者を含む)」(23.8%)、「会社員(団体職員を含む)」(20.5%)、「主婦(夫)」(19.5%)の順となっています。

問 1-5



家族の人数については、「2人」(26.7%)、「3人」(25.0%)、「5人以上」(22.6%)の順となっています。

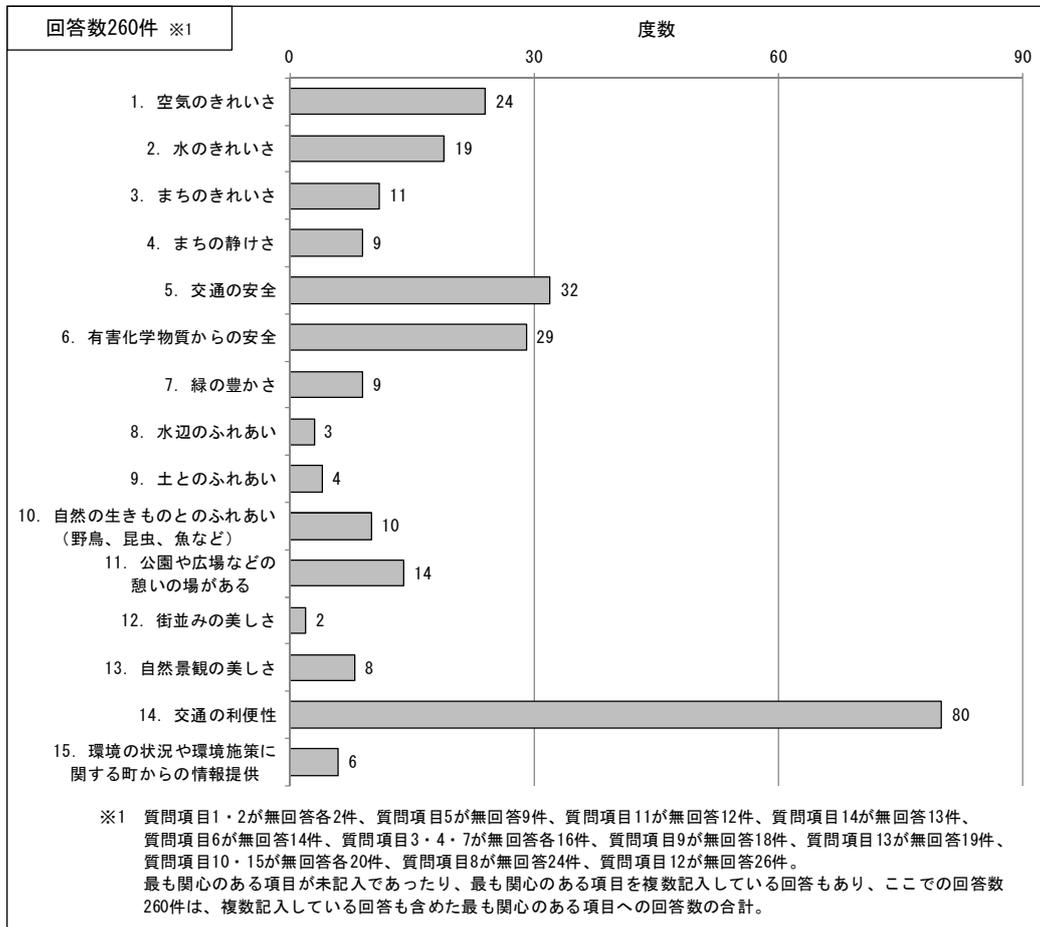
問 1-6



居住地については、「伊草地区市街化区域」が25.5%と最も多く、次いで「中山地区市街化区域」(24.8%)、「三保谷地区」(10.7%)の順となっています。

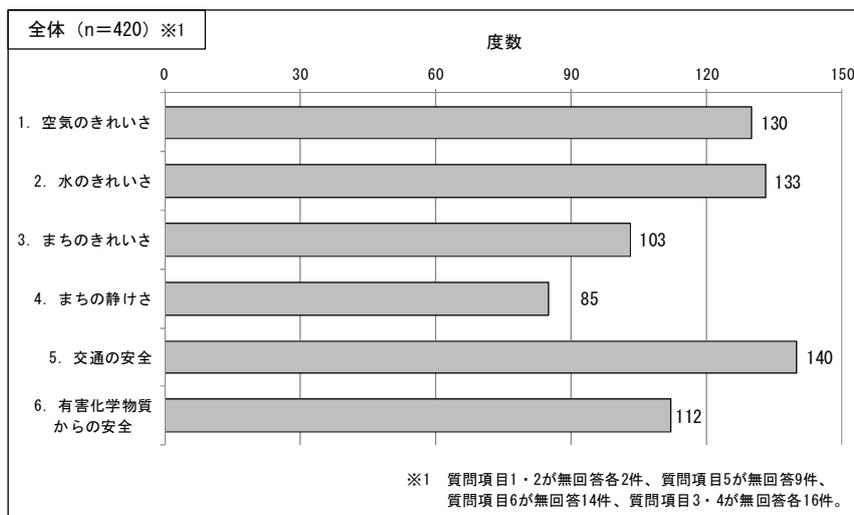
2. あなたの身近な環境に対する意識について

- 最も関心のある環境



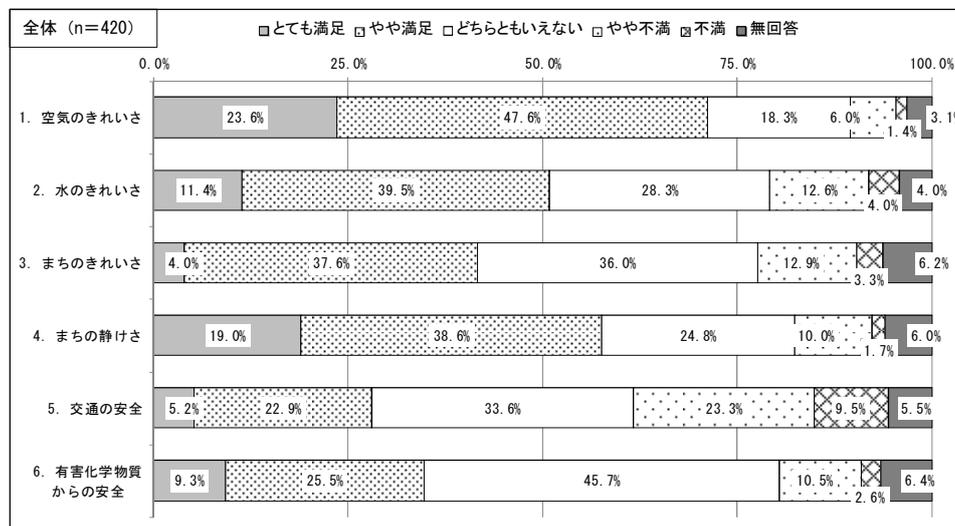
すべての項目の中で最も関心のあるものとして、「交通の利便性」が 80 件と最も多くなっており、その次に多い項目が「交通の安全」(32 件)であることから、交通環境に対する関心が特に高くなっていることがわかります。

(1) 生活環境について（関心度）



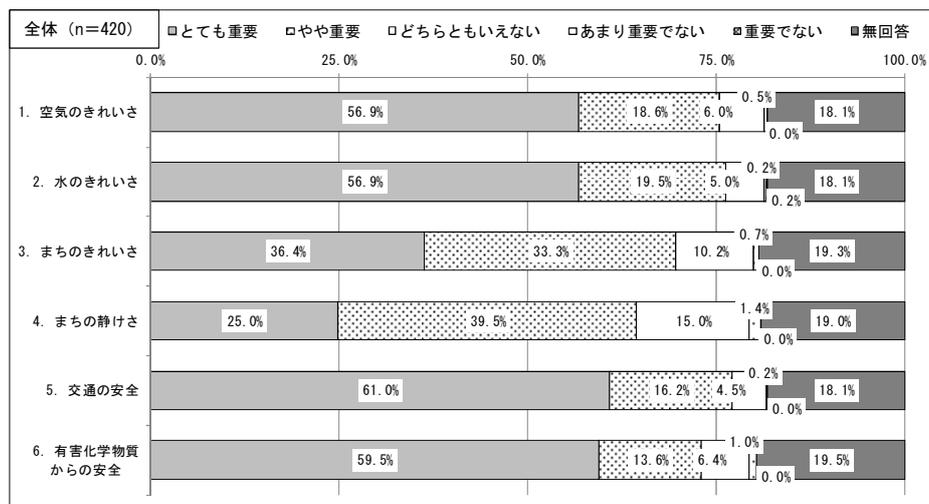
生活環境の関心度については、「交通の安全」（140 件）、「水のきれいさ」（133 件）、「空気のきれいさ」（130 件）の順に関心度が高くなっています。「まちの静けさ」を除く項目で、関心度が 100 件を超えています。

(1) 生活環境について（満足度）



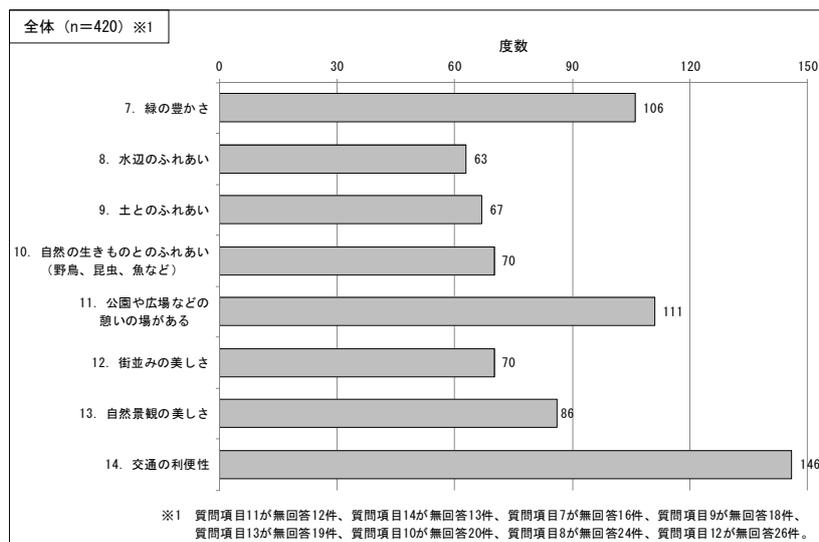
生活環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が、「空気のきれいさ」（71.2%）、「まちの静けさ」（57.6%）、「水のきれいさ」（51.0%）の順で高くなっており、自然やまちのきれいさに対する満足度が高くなっています。一方、関心度が高かった「交通の安全」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が 28.1% と最も低くなっています。

(1) 生活環境について (重要度)



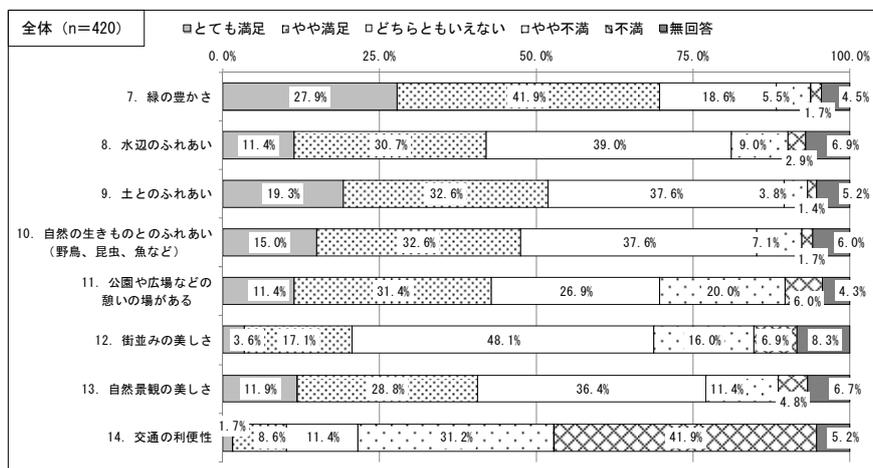
生活環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の安全」が77.1%と最も高く、次いで「水のきれいさ」(76.4%)、「空気のきれいさ」(75.5%)の順となっています。

(2) 自然環境や快適環境について（関心度）



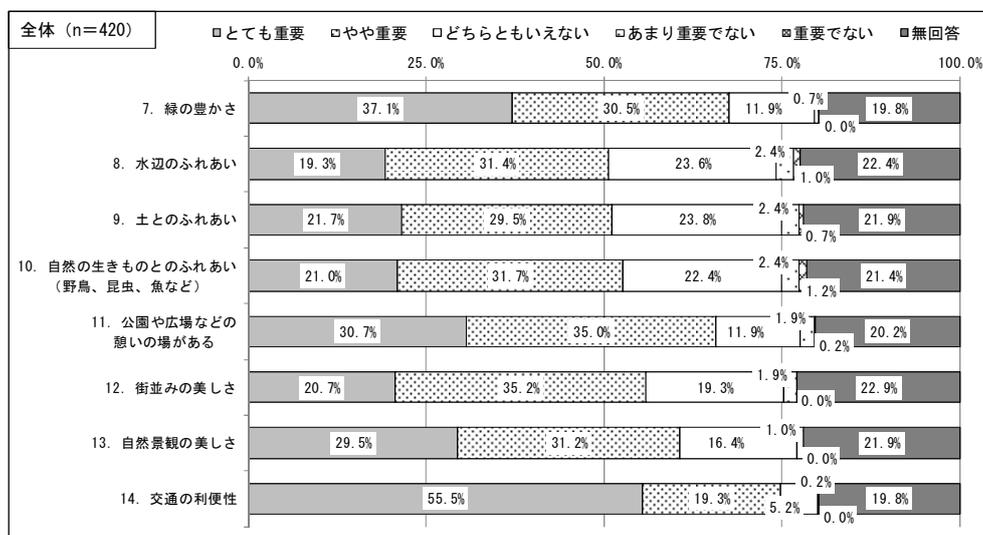
自然環境や快適環境の関心度については、「交通の利便性」が146件と最も関心度が高いです。また、町民の憩いの場（「公園や広場などの憩いの場がある」（111件））や、自然環境の良さ（「緑の豊かさ」（106件）、「自然景観の美しさ」（86件））に対する関心度も高くなっています。

(2) 自然環境や快適環境について（満足度）



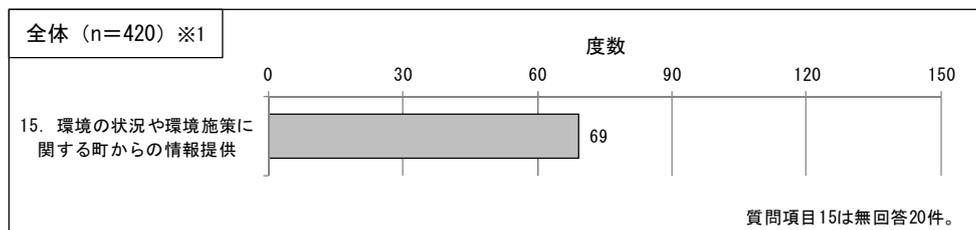
自然環境や快適環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「緑の豊かさ」（69.8%）が最も高く、次いで「土とのふれあい」（51.9%）、「自然の生きものとのふれあい（野鳥、昆虫、魚など）」（47.6%）の順となっています。関心度が高かった「交通の利便性」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が10.2%にすぎず、逆に「不満」と「やや不満」の合計が73.1%となっています。このことより、交通の利便性の低さから関心度が高くなったものと考えられます。

(2) 自然環境や快適環境について (重要度)



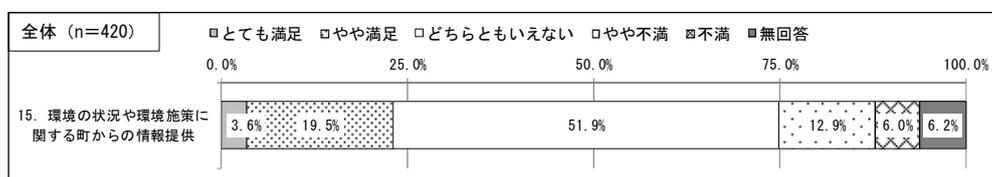
自然環境や快適環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の利便性」(74.8%)、「緑の豊かさ」(67.6%)、「自然景観の美しさ」(65.7%)の順で高くなっています。満足度が低かった「交通の利便性」については、「とても重要」との回答が50%を超えており、改善が望まれている環境であることがうかがえます。

(3) 環境情報の提供について（関心度）



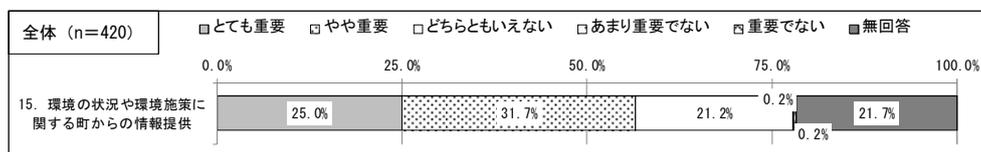
環境情報の提供の関心度については、「環境の状況や環境施策に関する町からの情報提供」が69件となっており、他の項目と比較すると低位にとどまっています。

(3) 環境情報の提供について（満足度）



環境情報の提供の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が23.1%、「不満」と「やや不満」の合計が18.8%であり、若干、満足度の方が高くなっています。

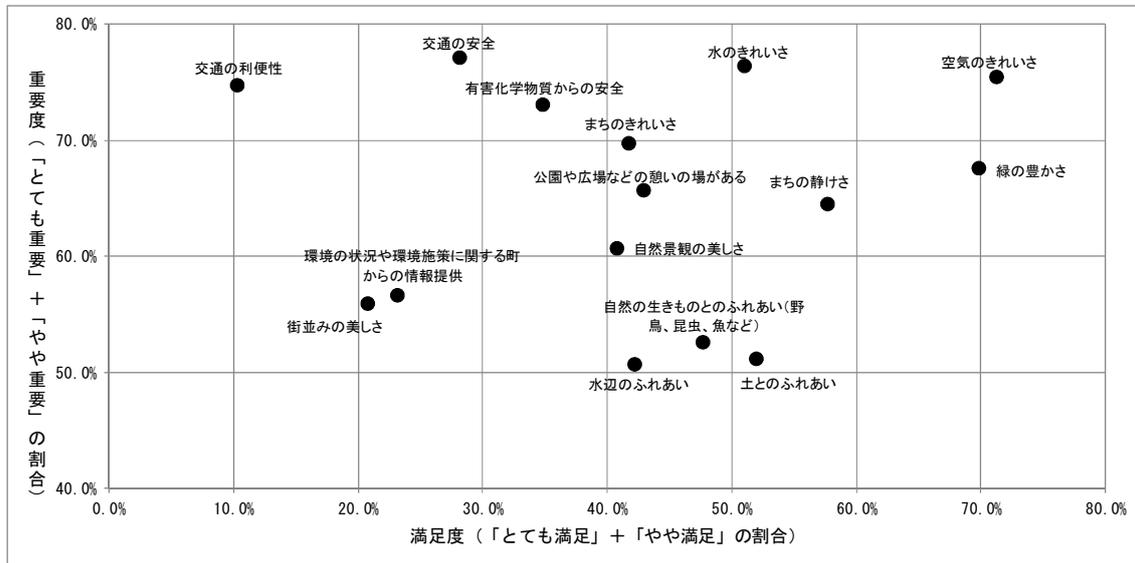
(3) 環境情報の提供について（重要度）



環境情報の提供の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が56.7%となっています。

・ 満足度と重要度との相関関係

すべての項目について、満足度（「とても満足」と「やや満足」を合わせた割合）と重要度（「とても重要」と「やや重要」を合わせた割合）の関係を表したものを以下に示します。



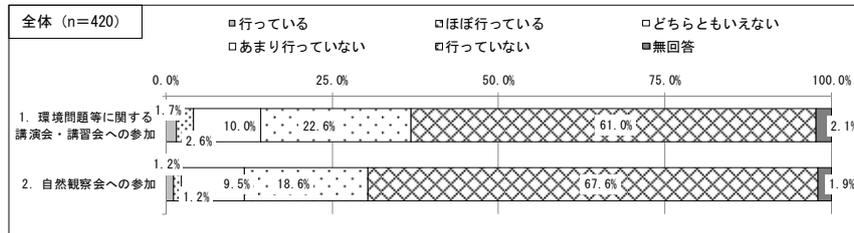
満足度と重要度の関係を見ると、「空気のきれいさ」や「緑の豊かさ」については、満足度も重要度も高く、維持を維持するとともに、さらなる増進の必要性がある項目といえます。

また、交通環境（「交通の利便性」と「交通の安全」）については、重要度が高いにもかかわらず満足度が低くなっており、特に「交通の利便性」はその傾向が顕著に表れています。安全を考慮した便利な交通環境の整備が望まれていることがわかります。

3. あなたの日頃の環境保全に対する取り組みについて

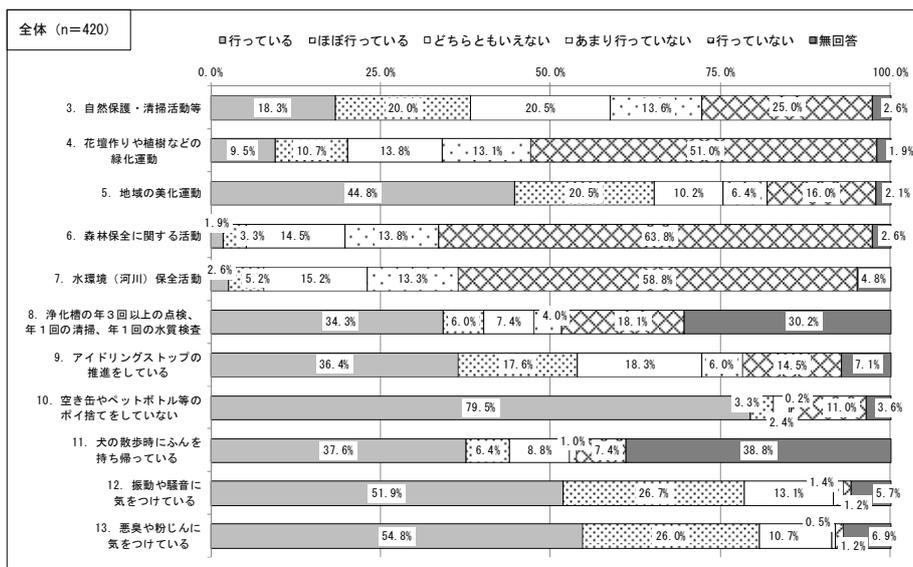
問3-1

(1) 講演会・観察会について



講演会・観察会への取り組みについては、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計が、「環境問題等に関する講演会・講習会への参加」は83.6%、「自然観察会への参加」は86.2%となっており、行政等がそのような機会をつくることが重要であると考えられます。

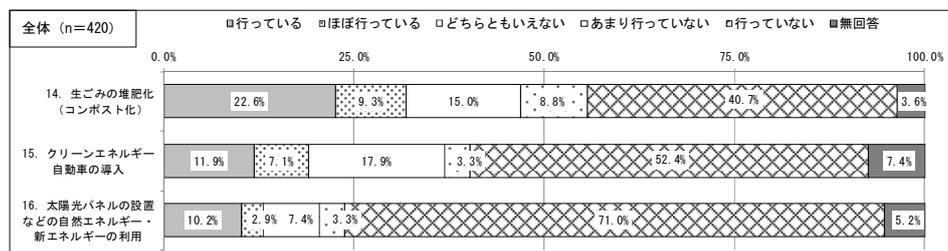
(2) 自然保護・清掃活動等について



自然保護・清掃活動等への取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が、「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」で82.9%と最も高く、次いで「悪臭や粉じんに気をつけている」（80.7%）、「振動や騒音に気をつけている」（78.6%）の順となっています。日常生活の中で気をつけることで取り組める内容の取り組み度合いが高くなっていることがわかります。

一方、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計は、「森林保全に関する活動」（77.6%）や「水環境（河川）保全活動」（72.1%）、「花壇作りや植樹などの緑化運動」（64.0%）が高くなっています。問2では、「空気のきれいさ」や「水のきれいさ」、「緑の豊かさ」の重要度が高くなっていたことから、このような活動・運動に参加しやすい環境を設けることで、取り組みが促進されるのではないかと考えられます。

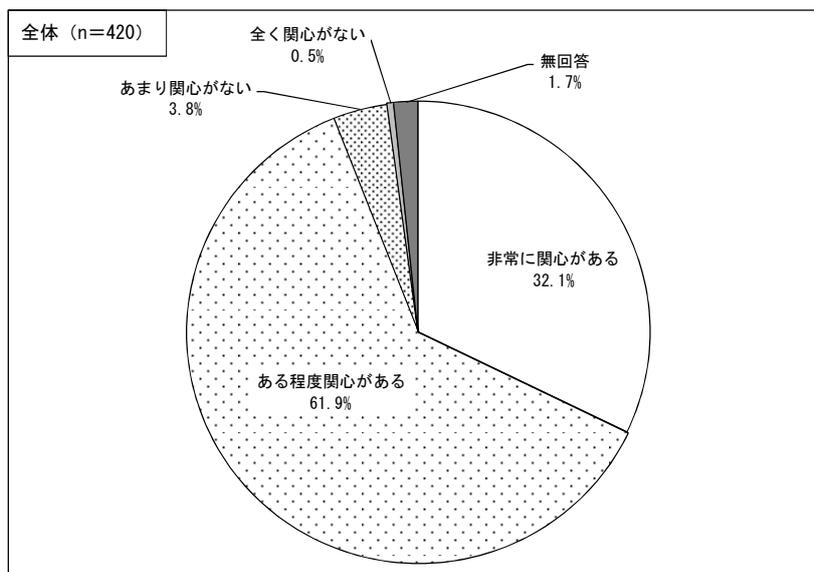
(3) リサイクル・省エネルギーについて



リサイクル・省エネルギーへの取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計よりも、すべての項目で「行っていない」と「あまり行っていない」の合計の方が高くなっています。

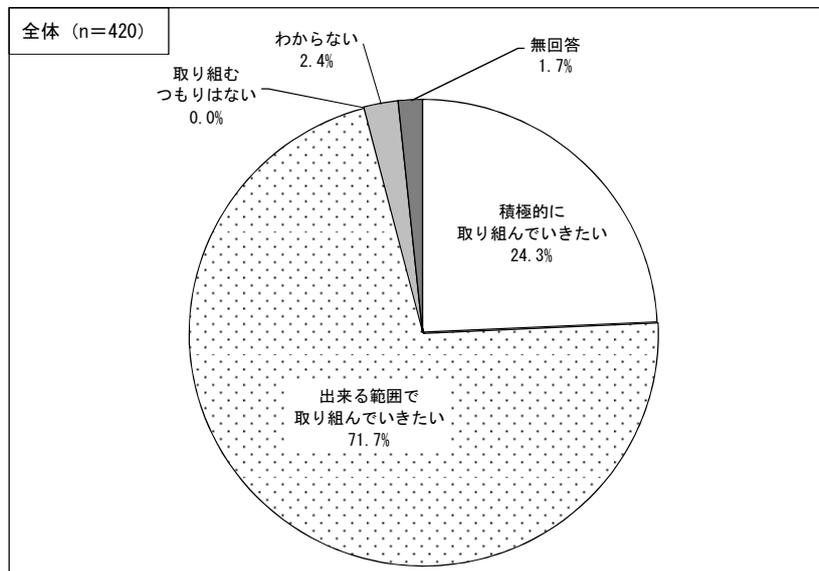
その他の意見として、「ハイブリッド車を使用」、「団体の活動には参加する機会がないが個人では道路のごみなどを拾っている」、「庭、道路からの景観、花や緑で潤う努力をしている」「物を大事にしている」などが挙げられていました。

問3-2



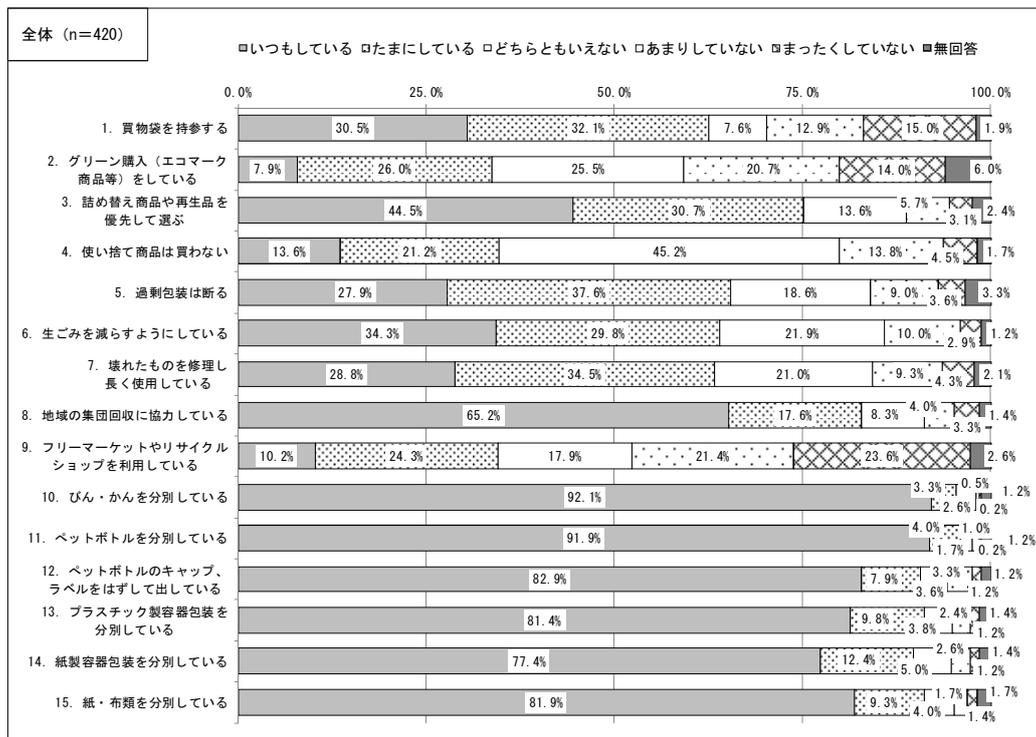
ごみの問題への関心については、「非常に興味がある」と「ある程度は関心がある」の合計が94.0%となっており、ほとんどの回答者が関心をもっていることがわかります。

問3-3



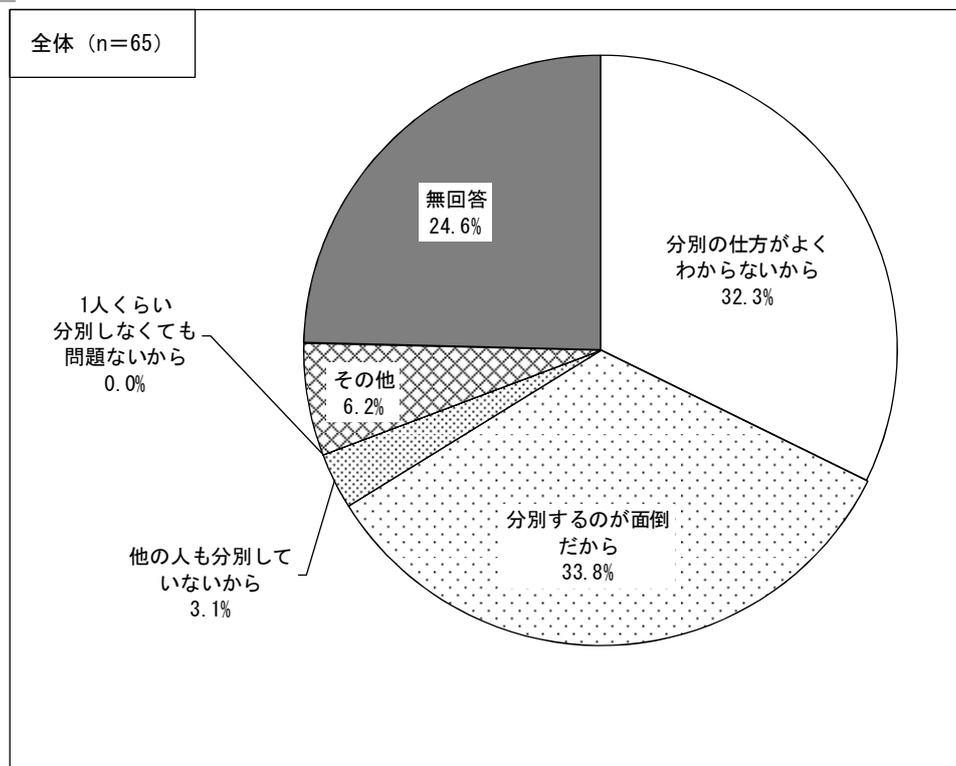
ごみの減量化やリサイクルの取り組みについては、「出来る範囲で取り組んでいきたい」が71.1%、「積極的に取り組んでいきたい」が24.3%となっています。また、「取り組むつもりはない」との回答はなく、ごみの減量化やリサイクルの取り組みの今後の推進が期待されます。そのためにも、行政側から支援やアドバイス等を行うことを検討していくことも必要と考えられます。

問3-4



ごみの減量やリユース・リサイクルや分別については、「いつもしている」と「たまにしている」の合計が、「ペットボトルを分別している」で96.0%と最も高く、次いで「びん・かんを分別している」(95.5%)、「プラスチック製容器包装を分別している」と「紙・布類を分別している」(91.2%)の順となっています。ほとんどの項目で「いつもしている」と「たまにしている」の合計が60%を超えていますが、特に分別については、すべての項目で「いつも行っている」が70%を超えており、日常的に分別を行っていることがわかります。

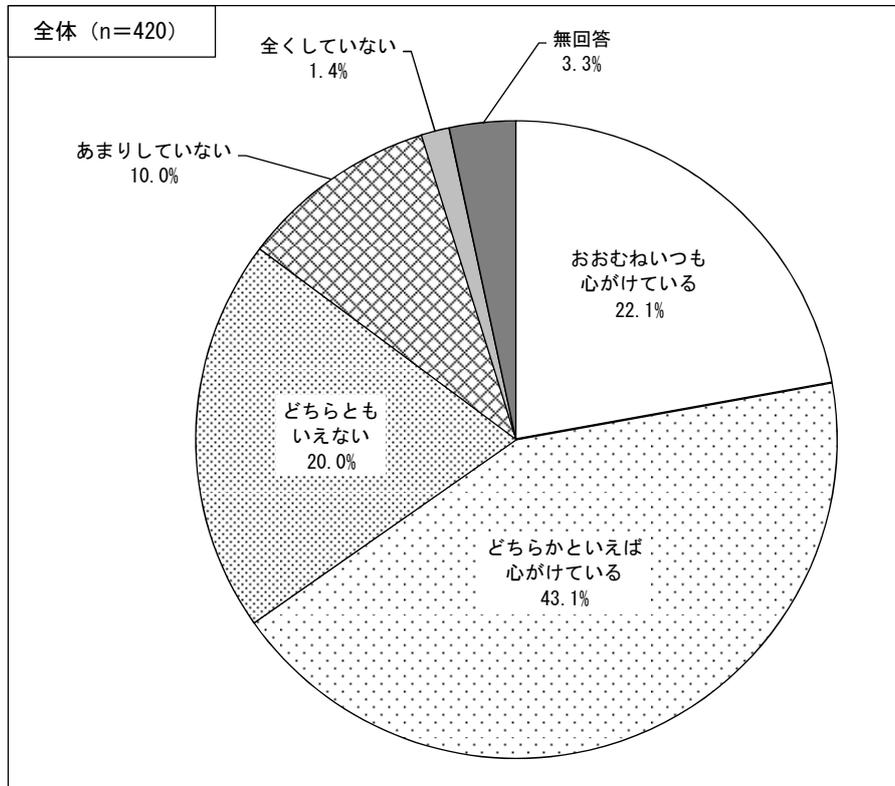
問 3-5



ごみの分別を行わない理由については、「分別するのが面倒だから」が 33.8%と最も高く、次いで「分別の仕方がよくわからないから」(32.3%) となっています。この2つの理由が高いのは中学生に対するアンケートの結果と同様の傾向であり、ごみの分別の重要性を訴えたり、分別マニュアルをよりわかりやすくするなどの対策が考えられます。

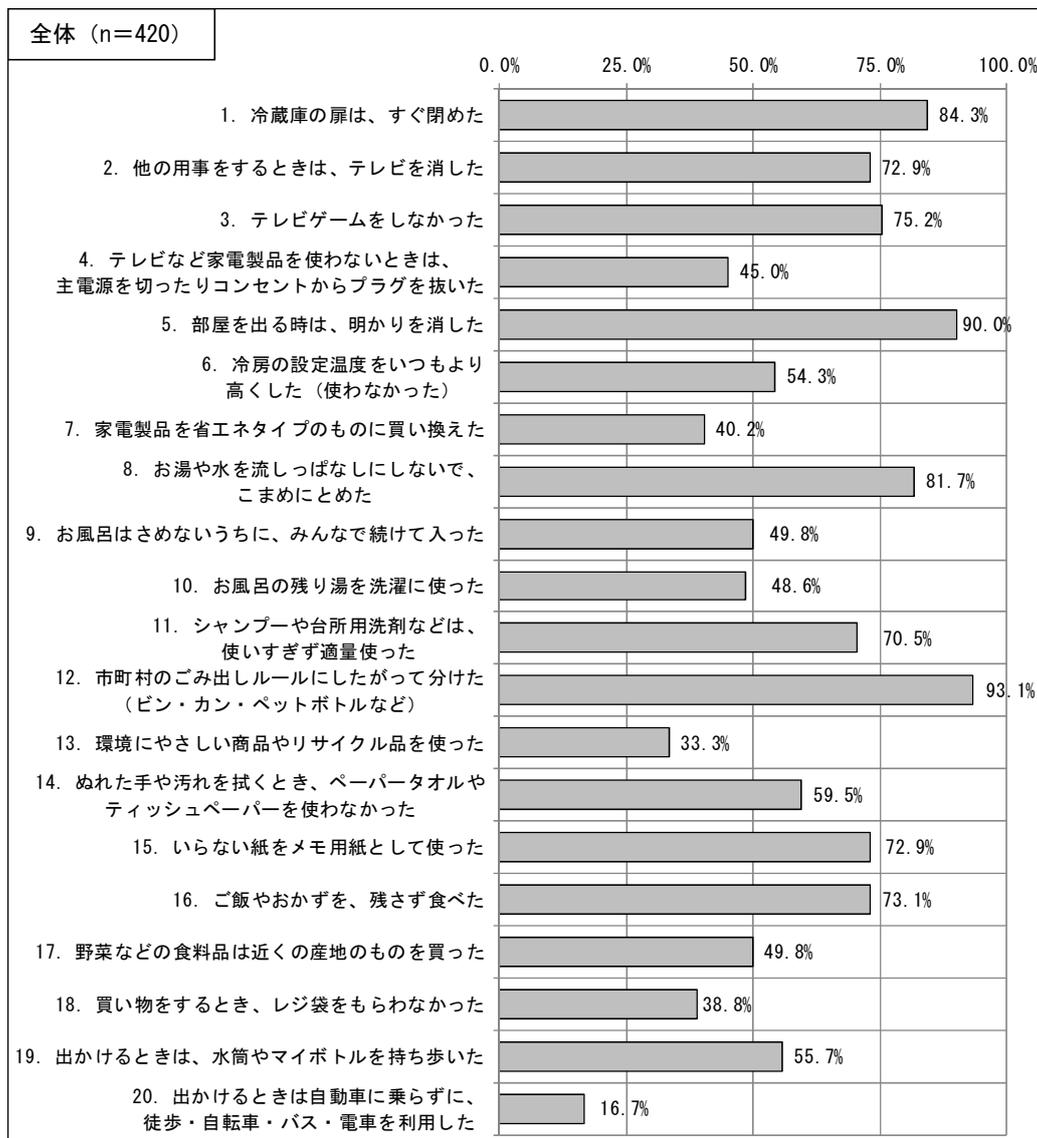
4. 地球温暖化防止に関する取り組みについて

問4-1



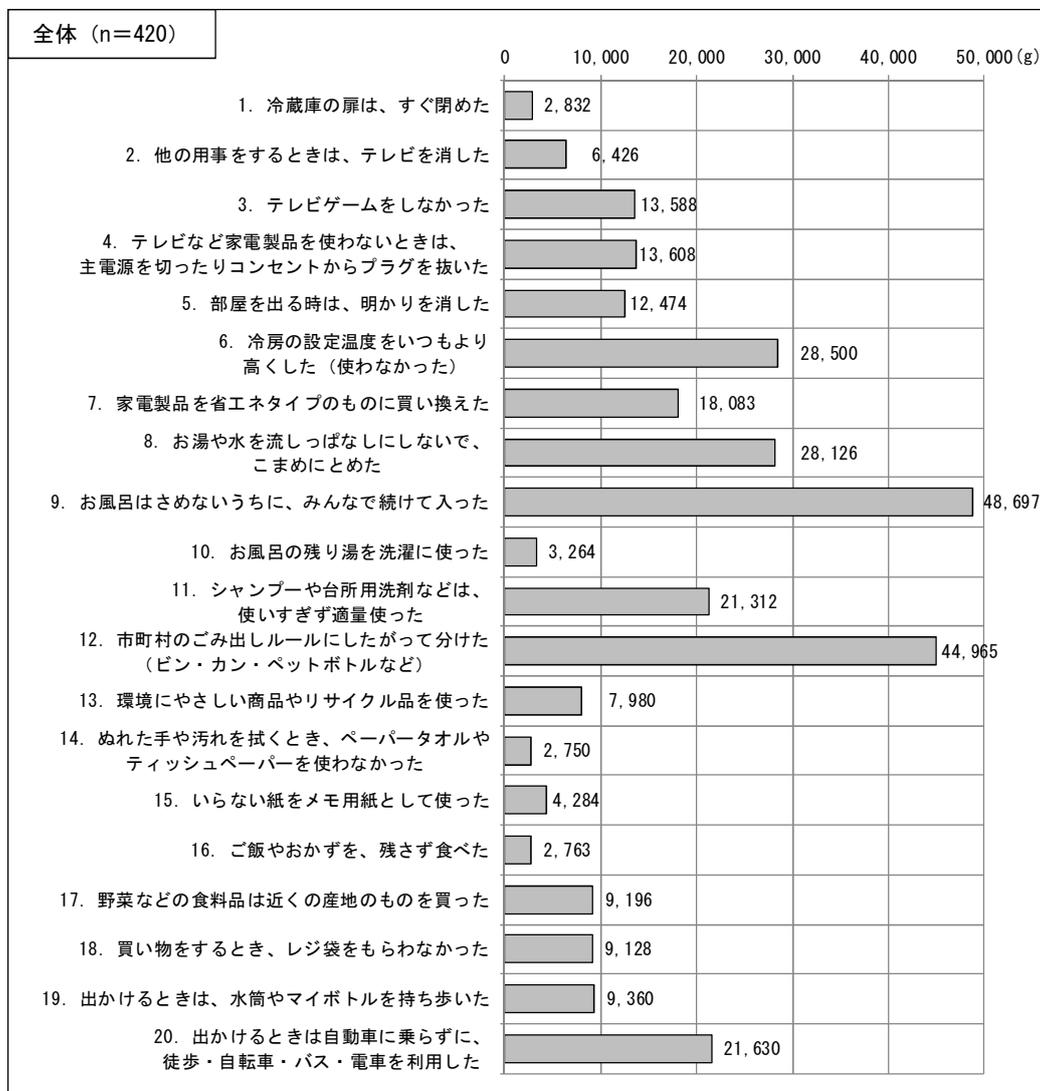
生活の中での地球温暖化防止に配慮した行動の心がけについては、「どちらかといえ心かけている」が43.1%と最も高く、次いで「どちかといえ心かけている」(22.1%)、「どちともいえない」(20.0%)の順となっています。「どちかといえ心かけている」と「どちかといえ心かけている」を合計すると、回答を得た町民の6割以上が、生活の中で地球温暖化防止に配慮した行動を心がけていることがわかります。

問4-2



地球温暖化防止に配慮した行動について、それぞれの行動を行った人数の割合をみると、「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた (ビン・カン・ペットボトルなど)」(93.1%) が最も高くなっており、次いで「部屋を出る時は、明かりを消した」(90.0%)、「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」(84.3%)、「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」(81.7%) の順となっています。順位は異なるものの、中学生と同様の行動が上位になっています。

各行動がどの程度の CO₂ 排出の抑制につながっているのかを示した図を以下に示します。下図では、各行動による CO₂ 排出の抑制量と行動を取った人数を掛け合わせ、その合計を求めた結果を示しています。

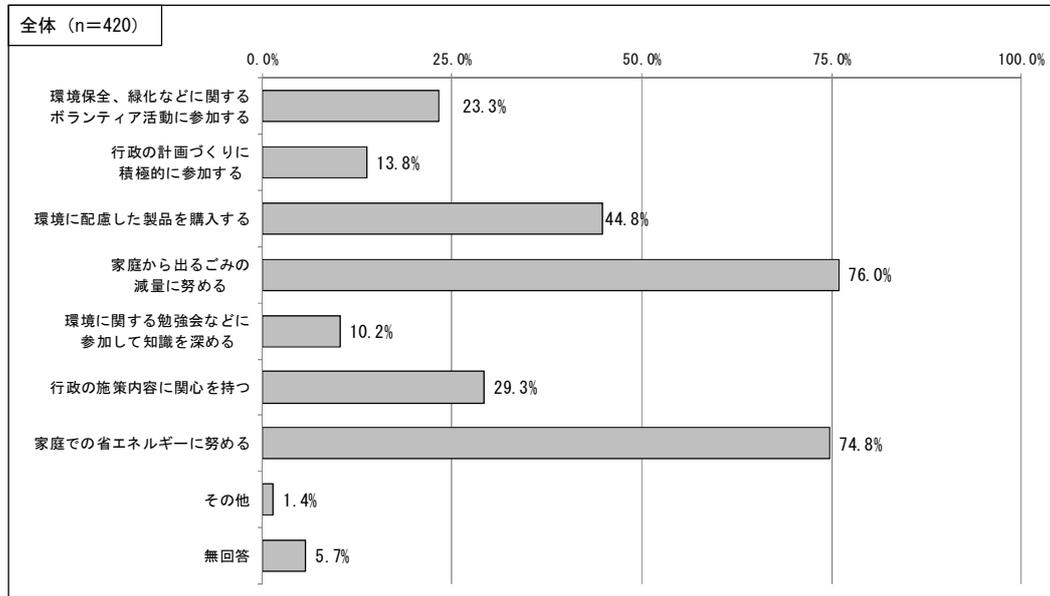


最も CO₂ 排出量が抑制された行動は、「お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った」(48,697g) となっています。次いで「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた（ビン・カン・ペットボトルなど）」(44,965g) が多くなっています。

中学生は自ら自動車に乗ることができないため単純に比較することはできませんが、中学生の回答では、184名の回答者数で「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」が 32,445g であったのに対して、町民は 420名の回答者数で 21,630g と少なくなっています。問 2 において町民の「交通の利便性」に対する不満度が高いことから、自動車に変わる交通機関の利便性の低さが、自動車以外の移動手段を利用することを阻害する要因の一つになっていることが考えられます。

5. あなたが環境保全のために町民・事業所・行政に望むことについて

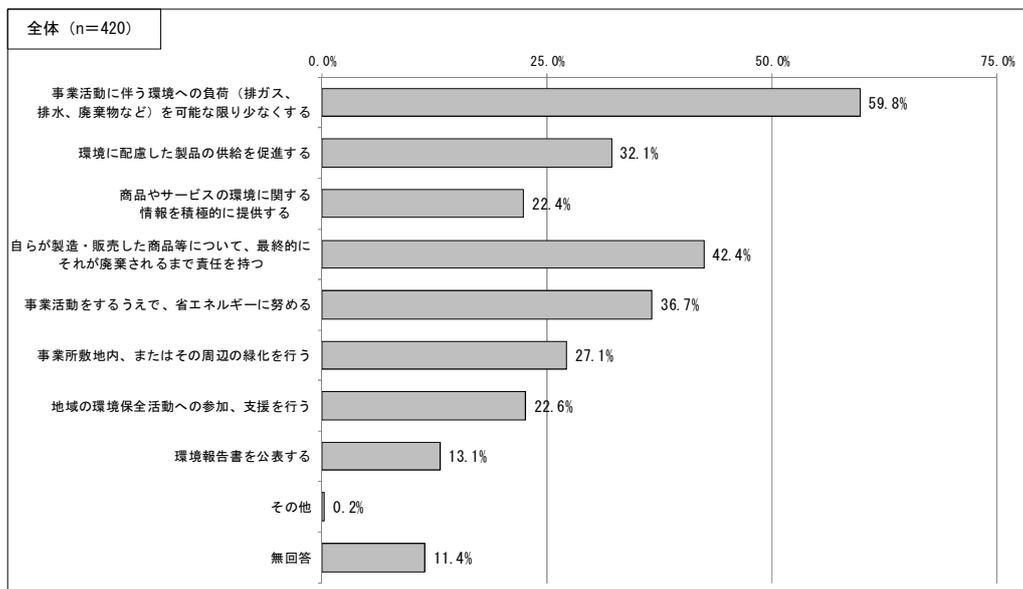
【町民が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために町民が今後行った方がよいと思うこととして、「家庭から出るごみの減量に努める」(76.0%)と「家庭での省エネルギーに努める」(74.8%)が7割を超えています。次いで「環境に配慮した製品を購入する」(44.8%)となっており、日常生活の中で取り組むことができる内容の割合が高くなっています。

「その他」の意見として、「エコバックの推進」、「各家庭に庭先敷地に余裕があれば樹木を1本ずつ植える」、「ごみ分別作業を家族の1人だけに押し付けないで協力する」が挙げられていました。

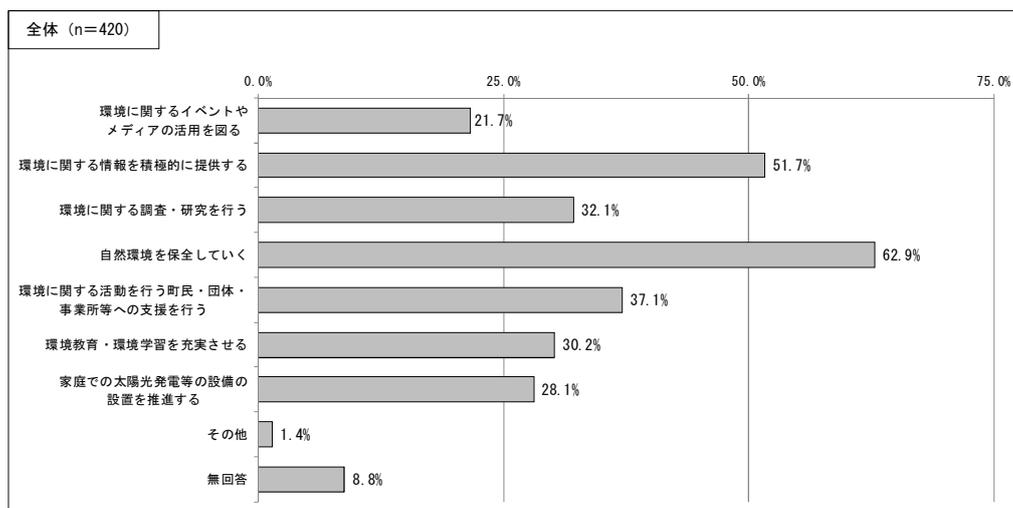
【事業所が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために事業所が今後行った方がよいと思うこととして、「事業活動に伴う環境への負荷（排ガス、排水、廃棄物など）を可能な限り少なくする」が 59.8%と最も高く、次いで「自らが製造・販売した商品等について、最終的にそれが廃棄されるまで責任を持つ」（42.4%）、「事業活動をするうえで、省エネルギーに努める」（36.7%）の順となっています。

「その他」の意見として、「業者による過剰包装の廃止」が挙げられていました。

【行政が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために行政が今後行った方がよいと思うこととして、「自然環境を保全していく」が62.9%と最も高く、次いで「環境に関する情報を積極的に提供する」(51.7%)、「環境に関する活動を行う町民・団体・事業所等への支援を行う」(37.1%)の順となっています。行政が主体となって環境保全に努めるとともに、町民等に対する情報発信・活動支援を望んでいることがわかります。

「その他」の意見として、「ISO14001を取得する。適用範囲は役所という狭い範囲だけでなく、町民を含めた全員としてダイナミックに活動する。」、「電車やモノレール等の排ガスの少ない乗り物を川島町民が利用出来る環境づくりをめざす。」、「大規模開発により、川島町の自然環境が大きく崩されている。町の自然を守ってもらいたい。また、廃棄物の処理等は慎重に行なっていただきたい。安易に許可を出さない等。」が挙げられていました。

6. 川島町の環境保全に関する取り組みについて

未完成